

▲黒髪天童岩から東・北の法面(スケッチ)



▲黒髪山頂、天童岩の夜明け



▲旧登山道に残る常夜塔と石段

黒髪山: 信仰と歴史を訪ねるクラシックルート

山名 RQNo. 7

黒髪山(山頂が天童岩)

ルート No.4-1

富野から黒髪山そして乳待坊へ

登山口 RQNo. 70

住吉城址

長寄駅

佐世保線三間坂駅

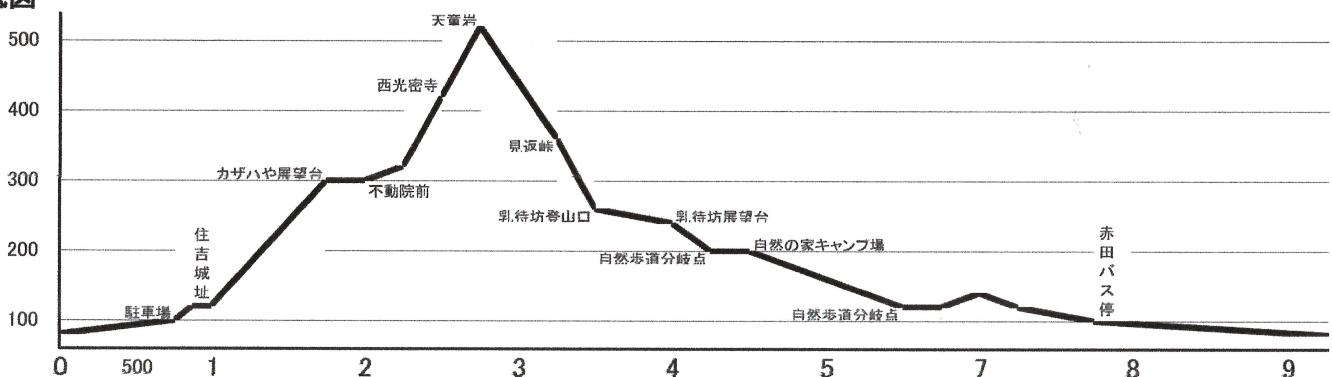
黒髪神社までバス移動で、
登山口まで1kmの車道歩きが必要

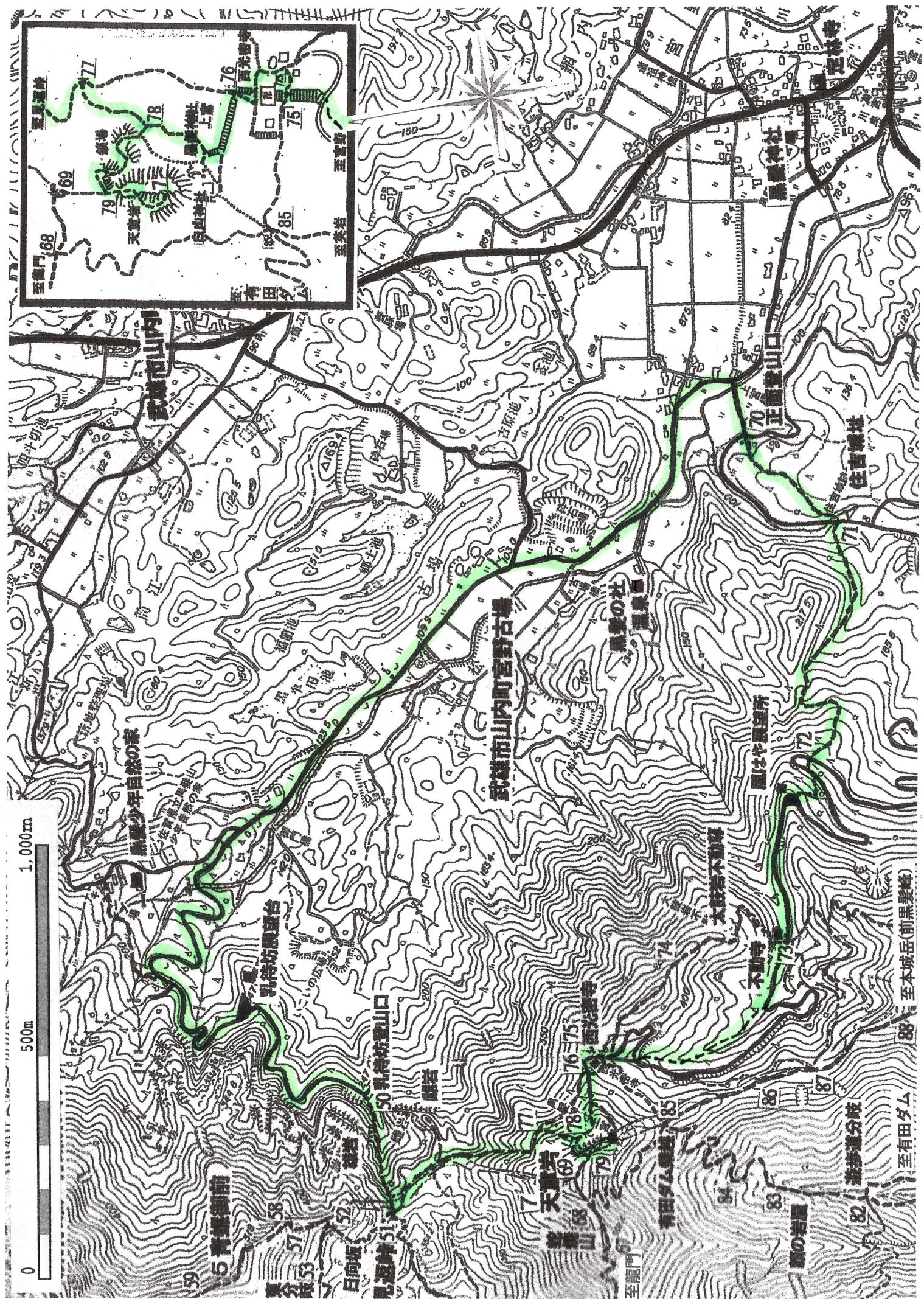
駐車場

本来なら、RESCUEですから、短縮造語は「RC」とすべきですが、ここでは「RQ」として表記しています。

黒髪神社 バス停	15分	住吉城址駐 車場／RQ70	10分	車道出合① RQ71	40分	車道出合② RQ72	1分	車道出合③
車道出合③	10分	かざはや展 望台	5分	不動寺前 RQ73	15分	西光密寺 RQ75	15分	天童岩直下 の分岐
天童岩直下 の分岐	5分	天童岩の尾 根	3分	天童岩	15分	天童岩分岐 RQ77	20分	見返峠 RQ51番
見返峠 RQ51番	10分	乳待坊登山 口	20分	九州自然歩 道口[標識]	10分	少年自然の家 キャンプ場	20分	薬師堂分岐 (左折)
薬師堂分岐 (左折)	15分	赤田バス停						
薬師堂分岐 (左折)	3分	自然歩道標識 の手前の民家	5分	石造り六地 蔵尊	5分	筒江窯跡	15分	赤田バス停

高低圖







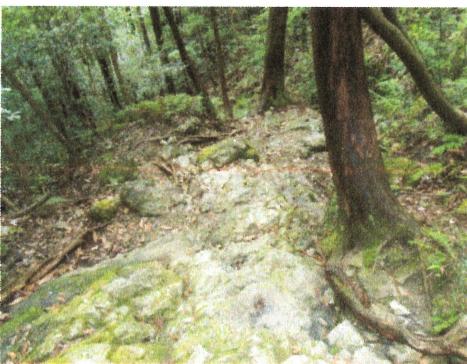
▲天童岩への石段道



▲天童岩への鎖場（一の鎖）



▲天童岩への鎖場（二の鎖）



▲見返峠への下り道



▲見返峠への下り道脇の夫婦岩展望台から

西光密寺から天童岩へ

天童岩へは、西光密寺の本堂の裏手の広場へ進む。

本堂右の手洗い場脇からと、左手の東屋先の階段の両方から行くことができる。本堂裏手の広場奥の階段を登ると、台地状の小広場に出る。

ここが天童岩と見返峠への分岐点(RQ76)である。

北(まっすぐ)へ進むと見返峠への道で、西(左)の階段が天童岩への道となる。天童岩への長い石段を登り詰めると、ここから2ルートを選択できる。

Aルート

Aルートは、神社へ立ち寄ること無く天童岩への登山路である。

登りつめた百段ガニギからすぐ、北(右)の小階段へと方向を変える。

小階段を上ると分岐となり、右手へ進み、急坂を登ると左手から、

Bルートと合う。

Bルート

Bルートは、白山神社や黒髪神社上宮に立ち寄り、天童岩に取りつく登山路だ。長い石段を上り詰めて西(まっすぐ)へ進み、白山神社へ出る。

社殿の背後に迫るのが天童岩で、右手の岩に掘られた階段を登れば、天童岩の岩洞にある黒髪神社上宮に着く。その脇を右手に進くと、右手の木立から上って来た登山路Aルートと合い、北進する。

すぐに天童岩への分岐点(RQ78番)に着く。

分岐点を北(まっすぐ)進めば見返峠への道で、まずは天童岩を往復する。道標に従い登ると、天童岩東岩壁に出る。

コンクリート貼りの道を進むと、いよいよ鎖場の登攀となる。

天童岩鎖場も、近年は足場や梯子も整備され、登りやすくなつたが、

緊張感をもつて3点確保で登りたい。登山は上り優先なのだが、緊張のあまりにルールも忘れ下りてくる登山者も増えた。譲り合って、安全に通過したい。

登りきると天童岩尾根の肩(RQ79)に出る。北(右)は龍門への下山路だ。

天童岩へは南(左)へ進む。岩の間を抜け、ナイフリッジを通過する。

この場所も、左右は切れ落ちているので、強風の時は要注意だ。

天童岩を西(右)へまわり込み、最後の三の鎖を登りきると、標高こそ518mの低山ではあるが、さえぎるもの無い360度の大パノラマが待っている。

山頂部南端の岩場に、有田焼陶器が設置され、肥前の名山を確認できる。

天童岩から見返峠へ

展望を楽しんだら、見返峠を経て乳待坊へ下山する。、

鎖場上の肩(RQ79)まで戻り、鎖場を下るが、鎖場の下りに不安感が残る場合は、迂回路ルートで西光密寺に戻り、見返峠へ下ることも可能である。

時間は+20分が必要である。迂回路ルートは、黒髪山No.4-3を参照されたい。鎖場を下った場合は、コンクリート貼りの道から、細引ザイルを頼りに東(左)へ下り、天童岩直下の分岐(RQ78)から北(左)に下る。南(右)は西光密寺への道である。

分岐から木の根の張る登山道を下ると、西光密寺からの登山道と合流(RQ77)して、北(左)へ進む。すぐに下りとなり、岩場の谷状の急斜面を下る。

道は表銀座コースで、明確であり、迷う心配はない。

1枚岩に刻まれた階段状を下り、ザイルに導かれて北(左)へ更に下ると、土場のなだらかな登山道に移る。やがて、雌岩への道を右手に見送り、

植林帯を左手に見て、急坂を下ると見返峠に着く。急坂の手前に展望台がある。

かつては、雌岩・雄岩の悲恋物語を偲ぶこのできる景勝地であったが、

樹木が育ち過ぎて、近年、樹木が成長して展望が効かなくなってしまった。

見返峠(RQ51)は昔からの交通の要衝で、雰囲気のある峠道である。

北(まっすぐ)進めば青螺山や青牧峠への道で、西(左)へは龍門渓谷へ下る銀座道である。



▲見返峠から乳待坊へ下る



▲乳待坊展望台から雄岩・雌岩、その後に天童岩を振り返る



▲筒江古窯跡付近から黒髪山(左)を望む

見返峠から乳待坊経由で赤田バス停へ

乳待坊への下山路は東(左)へ丸太敷きの階段道を下る。

すぐに石の階段道となり、平坦となれば雌岩・雄岩の間となる中間点で、古い道標に修驗場案内がある。雌岩の付け根洞窟に石仏が祀られている。再び階段状を下れば乳待坊登山口(RQ50)に下り着く。そこから林道を歩く。すぐに雄岩の根元をまわり、乳待坊岩峰群の岩根と石仏群を、左に見て歩けば乳待坊展望台に着く。

ここからは舗装道路の林道歩きで、乳待坊の岩峰群を楽しめる。

林立する岩々と自生する植物も初夏、秋と楽しめる。右手に繋ぎ岩が見える。

植林帯に入るとすぐ、左手に九州自然歩道の道標が建つ。

道標に従い左折(北へ)し、自然歩道に入り、黒髪少年自然の家まで行く。

自然の家キャンプ場を通過したら、舗装道路の分岐に出る。

マイカー利用で、住吉城址駐車場に戻るには、車道分岐を右へ下る。

少年自然の家施設を縦断して、田園と窯場の雰囲気を楽しみながら3kmの下りで赤田バス停へ向かう場合は、車道分岐を左へ下る。

路脇には岩屋や石仏があり、修驗道の雰囲気が最後まで楽しめる。

筒江の集落の途中に、九州自然歩道の標識に従い左折し、上りかけると

再び自然歩道の道標が森の中へと導く。約10分ほどで県道に出て、

南(右)手に下れば、西肥バスの赤田バス停に着く。

時間があれば、近くの歴史散策も楽しんで帰りたい。

この九州自然歩道の森に上がり、道標の家の手前から狭い車道を小川添いに下民家の裏手斜面は筒江新窯の窯跡で、更に進むと正面に古い鳥居が見えて来る。鳥居元には16世紀の石造り六地蔵尊がある。

更に民家の間を拭けて下ると、左手の丘は、筒江本窯の窯跡である。

古窯跡の丘の上から見下ろすこの集落は、江戸時代から窯場として栄えた。

ここから黒髪山を振り返るのも心地よい。

民家の先の小高い丘は「筒江窯の辻」と呼ばれる窯跡で、その南側の山手には、与謝野鉄幹・晶子夫妻の仲人と務めた渋川玄耳公の墓地がある。

筒江本窯跡の丘から下りて、狭い舗装道の小さな峠を越すと県道に出れば、北(左)へ100mで赤田バス停である。

伊万里や武雄方面へのバスが通うが、便数は限られているので、

事前に確かめておいた方がよい。(西肥バス伊万里営業所 Tel.0955-22-3171)

みどころ



▲住吉城址の本丸跡

住吉城址

黒髪山東山麓の丘陵地に築かれた中世山城です。築城の年代は分かりません。

武雄地方を支配した後藤氏が、本格的な普請を行い、

後藤家信の頃、天正14(1586)年に居城としたとされています。

主郭は変五角形をして、帶曲輪や腰曲輪が開きます。

南側に城郭を形成する空堀があり、主郭の外周全体に大規模な空堀と二重の土塁をめぐらせ、北側(登山道沿い)に正面虎口(出入り口)が設けられています。

慶長4(1599)年に火災で焼失した、伝えられていますが、その焦土痕は未だ確認されていません。家信は武雄塙崎城を居城とし、竜造寺・鍋島氏との佐賀藩体制づくりに奔走している頃でもありました。

**ヤマイバラ**

バラ科

黒髪山系の植物：134ページ

植生 林縁に生える

樹高 5~7mの半常緑のつる性木本

主幹がまっすぐ伸びて、大きいものでは15mを超える。幹径は4cm程度にもなる。

葉 厚く革質で大きい

花 花径は5cm程度で、花の終わりの頃に雄しべが淡紫色になる。

開花期：5月

和名の由来**チョウセンニワフジ**

マメ科

黒髪山系の植物：98ページ

植生 岩場に生える

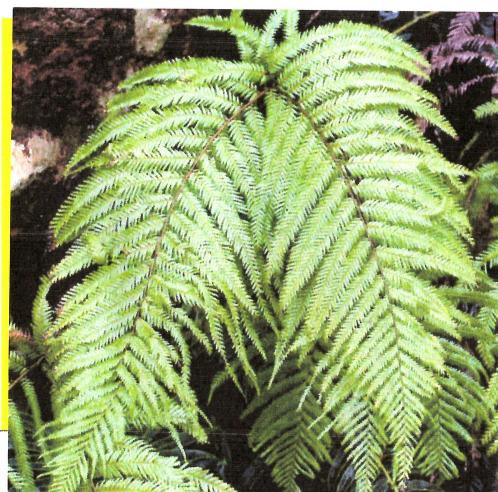
樹高 高さ30~50cmの落葉低木

葉 奇数葉状複葉で、小葉はコマツナより大きく、ニワフジに似るが、本種は花の旗弁に織毛を持たない。

花 開花期：5月

和名の由来

国内では長崎県と大分県のごく一部で見られるのみ。今後の研究が待たれる。

**カネコシダ**

ウラジロ科

黒髪山系の植物：188ページ

植生 常緑性の地上生の中型シダ

ウラジロ⇒

ウラジロとの違い

葉裏が白く無く、常緑

軸から葉の出る角度が45度前後で鋭角である

葉先がとがる

和名の由来

カネコシダ⇒

本種を日本で初めて発見した金子保平氏を祈念したもの

国内では長崎・熊本・大分・佐賀の4県、佐賀県では金立山、多久市、相知町などに自生する。

**ホトトギス**

フィールドガイド「日本の野鳥」：202ページ

大きさ 約28cmで、カッコウより小さい

習性 屋久島以北の山地の林に、夏鳥として渡来し、ウグイスに托卵する

特徴 下面の斑は太くて荒い。雌には赤色型がある。

捕食

啼き声 キョッキョキヨキヨキヨ（「特許許可局」とも）と聞き慣れた声で鳴く。夜間、飛びながら鳴くことが多い。



写真

日本野鳥の会佐賀県支部
加藤芳隆**フクロウ**

フィールドガイド「日本の野鳥」：188ページ

大きさ L:48~52cmで、W:94~102cm、

習性 九州以北で留鳥、低地や山地の林に棲む。大きな樹洞に営巣する。

特徴 上面は灰白色・黒色・褐色の複雑な斑紋で、肩羽外側の灰白色が目立つ。

捕食

啼き声 ホッホ、ホッホ、グルクスホッホと太い声で間を置いて、繰り返して鳴く

巣立ち直後の幼鳥はキー、チュリー、ギャギャヤなどと鳴く

写真／日本野鳥の会佐賀県支部／加藤芳隆